

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	乗用車販売店（従業員）	・トラックの受注台数が増えている。景気は良くなる。
	変わらない	百貨店（営業担当）	・熊本の市場や客の買上状況をみると、今後すぐには消費は回復しない。
		百貨店（営業担当）	・売上は前年並みと下げ止まっており、徐々に上がる傾向にある。
		百貨店（売場担当）	・暖冬で衣料品全般が悪く、特に紳士服、子供服関係は上がる気配が全然みられない。12月の在庫がまだあるため、1、2月は売上が増えるかもしれないが、予断を許さない状況である。また、増税等が消費を冷やす。
		スーパー（店長）	・年末ギフトの動きが悪いのをみると、今後もなかなか売上は上がらない。暖冬がそのまま続くと、一層売上は弱含みになる。
		スーパー（店長）	・衣料品は2、3月も現状の前年比70%前後のままで推移し、その分食料品や住関連商品でカバーする状況となる。
		スーパー（店長）	・婦人、紳士ともにジュエリー関係、インポートのブランド物等、高額品の売行きがかなり悪くなっている。かつてのように衝動買いがなく、客は必要にならないと買わない。単価もどんどん落ちてきている。
		スーパー（総務担当）	・食品はほぼ前年並みで推移しているが、暖冬の影響で衣料品、住居用品が前年をかなり割り込んだ。今のところ目立ったヒット商品も見当たらないため、今後も気温に大幅な影響を受ける。
		家電量販店（店員）	・パソコン販売に関しては、新製品が出るまでの間、物が足りなくなり、平行線のまま推移する。
		自動車備品販売店（従業員）	・競合店の出店により、当店の商圈エリアが縮小していることが懸念材料である。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・客の会話からは、冬期賞与の支給状況は厳しかったが、支給はされたとの安堵感も聞かれる。今後は寒さも本番を迎え、季節移行期を迎えるため、本来の季節商品の販売に期待したい。また、1～3月の3連休等の大型消費にも期待をかけている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・2月にランタンフェスティバルがあるが、以前の盛り上がりをお楽しみしない。県外からの宿泊客も以前は期間通して一杯だったが、最近は週末に集中していて、平日はがら空きである。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊やレストランの予約はさほど改善していない。婚礼の件数も依然として低く、今後改善するような状況ではない。
		旅行代理店（従業員）	・先行きは不透明であるが、前年並みで推移する。ただ、スマトラ沖地震の影響が少し心配である。
	旅行代理店（従業員）	・旅行への消費が増えていない。学生旅行は例年並みの出足だが、春の家族旅行に不安が残る。	
	タクシー運転手	・年末年始は遠出をせず近場で済ませ、金を使わない正月を過ごそうとする客が多かった。また、買物客が例年に比べ極端に少なかった。	
	競馬場（職員）	・来客数、売上ともにまだまだ前年割れの状態である。この傾向が今後も続く。	
	設計事務所（所長）	・個人客の住宅建築の依頼が少ない。この傾向が今後も続く。	
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・年明けと同時に郊外大型店が相次いで開業を予定している。郊外大型店の商圈の拡大に危機感を抱いている。
百貨店（販売促進担当）		・近年の傾向として、購買がクリアランスに一極集中し、その後の購買は全く伸びないという状況であり、今年はその傾向が一段と高まっている。よってクリアランス後の2～3月は例年以上に厳しくなる。	
衣料品専門店（総務担当）		・客の商品の選別が厳しく、売上数量が少なくなっている。気軽に買ってもらえない。今後は更に売上量が少なくなりそうである。	
住関連専門店（経営者）		・今月の荷動きをみると、1月以降の動きも厳しいようである。家具関連の業界では景気は当分厳しい。	
一般レストラン（経営者）		・年末の売上等を考えると落ちるのは間違いない。ただし、歓送迎会の需要やバレンタイン、ホワイトデーの動きは前年より良くなる見込みである。	

	一般レストラン（スタッフ）	・飲食に関しては、忘年会のように必ず参加するものには客は来るが、それ以外の自発的な飲食への消費が鈍っている。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・前年に比べホテル宿泊の予約件数が少ない。	
	都市型ホテル（副支配人）	・地震や災害で旅行を手控えるため、ホテル需要は減ってくる。	
	旅行代理店（業務担当）	・前年悪かったOL層の動きが若干戻っているが、家族旅行の動きが悪い。特に春休みは家族旅行の比率が高いので、売上に悪影響を及ぼすのではないかと懸念している。ファミリー層の支出に対する姿勢は、夏場より一層慎重になっている。	
	タクシー運転手	・1～2月の県外からの客は年々減っている。宿泊客が少ないと、街自体の人の出も少なくなるため、景気は悪くなる。	
	タクシー運転手	・近隣の工場で人員整理があり、3人に1人が退職、又は定年退職になり、その後の補充はしないということである。心理的に消費を控えるのではないか。	
	住宅販売会社（従業員）	・暖冬の影響もあり歳末商戦等で冬物の動きが悪いことに加え、賞与が出ても客が金を使わないという傾向もあり、景気は悪い。この傾向が今後も続く。	
悪くなる	百貨店（売場担当）	・暖冬の影響もあり、季節商品がなかなか売れず苦戦した。定率減税の半減や年金不安等の社会問題が影響し、ぜいたく品を扱っている百貨店において景気が回復するのは当分先と判断している。	
	乗用車販売店（経営者）	・本来であれば新卒需要が出てくるはずであるが、全くない。就職が決まっていない人がかなりおり、決まっても給料が安いために車を買えない。また、父親がリストラされ車を買えないとか、保証人になってくれないという話も聞かれる。	
	スナック（経営者）	・景気の回復が見込める材料がない。経費節減がますます進み、飲食店は厳しい状況になる。	
企業 動向 関連	良くなる	-	
	やや良くなる	経営コンサルタント	・2004年は天災等が消費者のマインドを下げた。年が明けて若干天候的にも通常に戻るため、プラスの方向に向かう。
	変わらない	家具製造業（従業員）	・2～3月は業界の需要期なので多少上向くと思われる。しかし、年度末の官公庁による駆け込み需要が年々減っていることや、BSEによる牛肉輸入禁止も長引き飲食業の新規オープンがかなり減ったことが懸念される。
		一般機械器具製造業（経営者）	・以前の見積案件が復活し、1～2月にかけて出そうである。ただし景気動向によっては客先の判断により受注がずれすることも否定できない。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・メーカーや大手企業はまだ海外及び国内においても活気があり忙しいが、零細企業はメリットのない仕事で忙しく、利益の出ない仕事に追われている。
		建設業（総務担当）	・税制改正や中越地震、スマトラ沖地震等が影響する。
		不動産業（従業員）	・宅地販売部門においては、販売区画数はほぼ横ばいで推移しているものの、地価低迷が影響し相変わらず販売価格を下げざるをえない状況にある。
		広告代理店（従業員）	・受注枚数などから判断すると、前年よりは確かに伸びているが、秋以降ほぼ同じ枚数で受注が推移している。悪くはないので期待はしているが、3か月程度は現状のまま推移する。
	やや悪くなる	農林水産業（経営者）	・年明けは消費が極端に落ちることもあるが、それも含めてここ3か月間のように好調には推移しない。加えて韓国で発生した鳥インフルエンザ（高病原性鳥インフルエンザ）の影響がどう出るか心配である。
		食料品製造業（経営者）	・来年3月には愛知万博が開催されるが、その反面南九州は話題性に乏しい。万博の余波を受けると思われ、南九州の観光関連産業の見通しは思わしくない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・毎年新年の展示会をする。そのときには地元の商社はあらかじめいくらかの注文を出すことになっているが、今年の場合、注文は商品を見てから決める等大変厳しい品定めとなり、注文を出さない商社も多い。消費低迷に加えて台風、地震と世界の災害も影響し、今後も期待できる状況にはない。
悪くなる		繊維工業（営業担当）	・このままでは企業の倒産や閉鎖がまだ出る。暖冬というのも非常に大きな要因となって、工場の受注もかなり少なく、周りの工場では14日～16日の稼働というも結構あるようで大変厳しい状況である。

		電気機械器具製造業 (経営者)	・電子部品関係の在庫調整が長引くという状況が全国的にみられる。関連会社も非常に動きが鈍くなっているし、半導体装置関係にしてもここにきて停滞気味である。
		経営コンサルタント	・清酒はずっと前年を割っている。焼酎関係は、以前は良かったのが、芋だけでなく麦、その他も含め悪くなる傾向にある。つぶれる酒類卸も出てきており、景気は衰退傾向にある。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社(社員)	・例年4月まで派遣業界は繁忙期に入るが、企業側から団塊の世代の退職後の対策も含んだ相談件数が飛躍的に増えており、人材の流動化は活発になる。
		求人情報誌製作会社 (経営者)	・年が改まり、企業の士気高揚も期待できる。ただ、先日のスマトラ沖の地震の影響は懸念されるが、全体的にはほのかな明るさを感じている。
	民間職業紹介機関(支 店長)	・年度末を控え、例年では求人数が増加する時期ではあるが、特に多くの人材を必要とするコールセンターや新年・新年度の買換え時期を見据えた営業・販売職の需要が増加している。また一部の業種では、来年度採用者不足を外部人材派遣会社へ求める動きが、年内に始まっている。	
変わらない		人材派遣会社(社員)	・IT関係を中心に、海外取引のため英語の使える営業事務のオーダーが最近多くなっている。一方で売上が良くないため、事業所の事業縮小や事務所の閉鎖等の情報も入ってくる。なかなかこの先良くなる情報が入ってこない。
		求人情報誌製作会社 (編集者)	・企業が積極的に派遣やアウトソーシングを活用することでフリーター層の求人需要が高まっているため、人材不足に陥っている。したがって、春先の需要が高まるとともに、派遣業やアウトソーシング業の人材不足は深刻になってくる。
		職業安定所(職員)	・引き続きパート求人や請負求人の占める割合が高まっており、安定した雇用につなげていない。
やや悪くなる	民間職業紹介機関(職 員)	・主力である半導体、ITエンジニア求人が減少している。弱電(電気通信)は若干伸びてはいるが、景気を左右するほどではない。今後は流通、食品に期待したい。	
悪くなる	-	-	-